



# なばり

2012年(平成24年) 6月3日発行

主な内容

- 1~2……風水害に備える～台風で甚大な被害を受けた紀宝町の教訓
- 2……「土砂災害情報相互通報システム」を運用開始
- 4……応急手当の手順、やなせ祭り、東山墓園墓所使用者募集

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp



## 紀宝町民の証言

「広報きほう」に掲載された台風12号の被災者の声を抜粋してご紹介します。

### この家には水はこないだろうと…

尾崎 さとみ さん



夕方5時過ぎ、水が輪中堤を越え、自宅も浸水し2階へ避難。停電で真っ暗な中、本当に怖かった。午前1時ごろ、2階まで水がきたとき、救助の明かりが…。救助に来てくれた人の「遅くなってゴメンよ。つらかったね」という言葉が忘れられません。「こちらこそ、早く避難しなくてすみません」という気持ちでいっぱいだったので。被害に遭うまで、この家には水はこないだろうと思う気持ちがありました。

### 貴重品も大事やけど…

大屋敷 國彦 さん



雨がすごくて、だんだんと道が浸り、屋敷の階段も浸水し始めているのが見えて「こりゃあかん！」と、早めに逃げたんや。「貴重品も出さなあかんけど、それどころじゃない！早く逃げなあかん！」と思って何も持たずに逃げたんよ。裏の山側に弟の家があったから、石垣づたいに、一生懸命這い上がってね。怪しいものも気付かんぐらい必死やったね。貴重品も大事やけど、やっぱり命がないとね。

### 隣近所で助け合って避難しました

西畑 正良 さん



当時、避難勧告・避難指示も伝わってこない状態で、自己判断で避難するしかありませんでした。小さな地区なので、だれが避難していないかがすぐにわかります。隣近所の人が、手を差し伸べ、引っ張り上げ、みんなで助け合って避難しました。また、その後の41日間の避難生活を通して、人は一人では生きられない、多くの人の助けや支えにより生かされていると痛切に感じました。

### 人のために自分は何ができるのか

東口 高士 さん



降り始めからインターネットで雨量を記録。自主防災の会長と話し合い、避難場所を高台に移したりしました。しかし、「まさか、輪中堤を越えるはずがない」「2階建てだし大丈夫」と思っている人がほとんどでした。輪中堤を越えたときは、みんながパニックに…。自分が何をすべきか常に考え、助かったら次に、人のために自分は何ができるのかと、他の人のことも考えてほしいです。



高さ9.4mの輪中堤(特定区域の周囲を囲むようにつくられた堤防)を越え、住宅地へと水が侵入していった(昨年9月3日午後5時ごろ/紀宝町提供)

# 台風で甚大な被害を受けた紀宝町の教訓

昨年8月30日から9月5日にかけて、紀伊半島を襲った台風12号。大型で動きが遅く、紀伊半島を中心に広い範囲で、総降水量1000ミリを超える記録的な豪雨に。河川のはん濫や土砂災害が相次ぎ、奈良県、和歌山県、そして、県内でも、紀宝町などに甚大な被害をもたらしました。こうした自然の脅威を忘れず、日ごろから災害に備えておくことが大切です。紀宝町発行の「広報きほう」23年12月号では、23ページにわたり、台風の記録を教訓として、後世に伝える特集が組まれました。今号では、紀宝町の協力を得て、特集に掲載された町民の証言や編集者の声をご紹介します。



土石流が発生し、住宅9棟がのみこまれた(紀宝町提供)。紀宝町では、ピーク時に約1,000人が避難。死者1人、行方不明者1人、全半壊851戸という甚大な被害を受けた。

2ページへ続く